

# 既刊「あいち国文」目次一覽



「あいち国文」発刊によせて

名を立てる考えかた

野崎典子  
小谷成子  
遠山一郎  
山下達治

小栗風葉と『青春』

山下達治

漱石とパスカル

——「無限」概念をめぐる試論——

山口比砂

村上春樹の小説にみる鏡像体験の諸相

加藤義信

〔短歌〕

旅情のうた

中歐紀行

成田美千代  
成田由紀代

『文久写本狂言集』（愛知県立大学附属図書館蔵）翻刻一

狂言研究会

名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻（一）

浅井圭子



文字文化財研究所ご紹介

石田元季先生と『平家正節』

尾崎正忠

「尾張国はやはり東海道か」

——田中卓氏「尾張国はもと東山道か」の論の検証を通して——

小林宗治

継母邪恋譚の諸相

狩野 一三

明石御方と花橘

西田 仲緒子

鬼と僧

——『百鬼夜行絵巻』が語るもの——  
名倉 ミサ子

「鼠の絵尽」をめぐる

——鼠の見た戦い（いくさ）——  
小谷 成子

名古屋明治期文芸雑誌考（一）

木下 信三

横光利一「雅歌」試論

中川 智寛

常用漢字体への疑問を中心に

草川 昇

四時間半で話せる「外国人のための日本語」教授法試案

——欧州で長年「日本語と格闘した男」からの提言——  
磯田 じょうじ

田園交響曲 as 戦争交響曲

犬飼 隆

〔短歌〕 自然詠・想ひ

中歐紀行・ケナフ

成田 美千代  
成田 由紀代

〔俳句〕 花菖蒲

湯本 明子  
東野 照子

『文久写本狂言集』（愛知県立大学附属図書館蔵）翻刻二

狂言研究会

名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻（二）

野崎 典子



聖武天皇関東行幸時の「狭残行宮」

——その訓みと所在地と性格などについて——

小林 宗治

中世王朝物語研究

——『恋路ゆかしき大将』について——

亀山明希

俳句 梅鉢草

四季

湯本明子  
村瀬千香子

当道音楽の歴史から

——その本質を探る——

宮川武治

『文久写本狂言集』（愛知県立大学附属図書館蔵）翻刻三

狂言研究会

名古屋明治期文芸雑誌考（二）

木下信三

名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻（三）

狩野一三

泉鏡花『女仙前記』『きぬぐ川』研究

——語り重なる女仙の物語——

松山裕美

戦中と現代と

——大西巨人「神聖喜劇」をゼミで読ませてみて

山口俊雄

「学年別漢字配当表」の見直しを

「新常用漢字表（仮称）」の試案を見て

草川昇

江戸期尾張大百科事典

——『張州雜志』復刻秘話——

生田良雄

「迹太川」の比定

小林宗治

短歌

ゆたにたゆたに  
花に寄す

成田美千代  
成田由紀代

名古屋明治期文芸雑誌考（三）

木下信三

天折の俳人・鈴木鵬子について

湯本明子



串田孫一の詩業

——「歷程」での活動を中心として—— 中村 誠

又吉栄喜『豚の報い』論

——混沌の世界を生きる—— 宮 沢 慧

「学年別漢字配当表」の見直しを 草 川 昇

四庫全書の二〇世紀 米 井 勝 一郎

——義和団戦争から電子化までの歴史——

〔短歌〕 箱根 十國峠

さくら 成 田 美千代

一九四四年六月——朝 長谷川 文子

昔の前津展を見て 成 田 由紀代

鳶の細道・母の思ひ出 成 田 由紀代

『文久写本狂言集』（愛知県立大学附属図書館蔵）翻刻 四

狂言研究会

名古屋蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻（四）

野崎典子

北信方言の疑問語と疑問文の音調 山 岸 朋 実



『源氏物語』研究

——「光る源氏」という呼称をめぐる——

杉 浦 理 菜

略本方丈記の表現と論理 岡 山 高 博

『徒然草』第四十四段と『源氏物語』 川 野 有 未

一休 その尺八禅に寄せる心 宮 川 武 治

浦嶋説話研究

——絵巻・絵入本から見る浦嶋—— 永 井 友 奈

幕末吉田藩女流歌人・国学者  
岩上登波子について

丸地 八潮

女子大の歌と高木先生

尾崎 知光

名古屋明治期文芸雑誌考（四）

木下 信三

綜合文芸誌『黄蜂』合本復刻について

—— 駆け抜けた偉才・寺田 守のこと——

湯 本 明子

串田孫一と同人誌「アルビレオ」

中 村 誠

役割語と視覚表現

鈴 木 喬

〔短歌〕 中国東北七月

小 心

大 塚 孝子  
加 藤 みづ江

久留倍官衙遺跡の「政庁」、駅家の可能性  
—— 建物遺構とその他の諸条件より見た遺構の性格 ——

小 林 宗 治

〔俳句〕 楠若葉

春を哭く

堀 川 道子  
村 瀬 千香子

防人歌の用字

—— 装置としての文字 ——

鈴 木 喬

『文久写本狂言集』（愛知県立大学附属図書館蔵）翻刻 五

狂言研究会

源氏物語研究

—— 泣く表現について ——

小 林 香 織

名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻（五）

浅 井 圭子

一条法印定為和歌の考察

後 萌 希



流布本方丈記の問題点

岡山 高博

名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻(六)

狩野 一三

也有と俳諧

——慰めの俳諧、しかし風雅——

青島 ゆみを

人生の縁

——君が代と旧師——

尾崎 知光

名古屋大正期文芸雑誌考(一)

木下 信三

江戸川乱歩「押絵と旅する男」論

——閉じ込められた隙間——

片岡 あい

狐の革裘

——中原中也の詩をひもとく鍵——

吉良 幸生

絵本作家・エッセイスト・佐野洋子について

——ここでは主にエッセイストとして——

湯本 明子

「新常用漢字」二千百三十六字に

草川 昇

「御食國」の訓み、再論

小林 宗治

俳句

花 筏

渡辺 妙子

古代のロマン 聖徳太子と尺八

——舞楽蘇莫者から——

宮川 武治

『文久写本狂言集』(愛知県立大学附属図書館蔵)翻刻六

狂言研究会

『源氏物語』における「鬼」

——人物批評からテーマを主導する機能へ——

横山 あずさ



鳩の話

——郷土の伝説・古文書から歴史の真実を探る試み——

藤田 正夫

比較文化学と松尾芭蕉

——芭蕉の旅を通して——

恒松 侃

泉鏡花「外科室」論

中川 智寛

名古屋大正期文芸雑誌考(二)

木下 信三

『俳人杉田久女の世界』出版後のことなど

——「花衣」廃刊と「ホトトギス」同人昇格の謎についても——

湯本 明子

埴谷雄高『死霊』研究

黒田 覇太郎

文献に見るからくり人形の歴史

千田 靖子

阿久根治子さんの思い出

花柳 龍蘭  
松本 沙帆

俳句 さくら咲く

仲野 絢子

短歌 巳の谷に近く

早春

三浦 佳子  
成田 美千代

『文久写本狂言集』(愛知県立大学附属図書館蔵)翻刻七

狂言研究会

名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻(七)

狩野 一三



萬葉集「いきのを」考

鈴木 喬

『源氏物語』研究

——具体的な日付の性質と役割について——

林 沙妃

『源氏物語』の「わらい」と人物造型

新井 美紗貴

名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻

(八)

野崎 典子

『秋夜長物語』研究

——天狗登場の意義——

福住 友里

ヨーロッパの魔女裁判

——近代ヨーロッパの闇——

日置 雅子

室生犀星『蜜のあはれ』論

加藤 可純

「いいかげん」の史的変遷について

山本 絢佳

『不木句集』について

湯本 明子

表紙解説

熊澤 美弓

名古屋大正期文芸雑誌考(三)

木下 信三

筑前国志賀の白水郎歌十首と志賀島

恒松 侃

若き日の鷗外

——『舞姫』を中心に——

永井 世津子

俳句 虫の夜

湯本 明子

川柳

伊藤 弘子

『文久写本狂言集』(愛知県立大学附属図書館蔵)翻刻八

狂言研究会

古典の中の〈世界〉／世界の中の〈古典〉

——土左日記・源氏物語・今昔物語集をめぐる——

(第一五〇回記念講演から) 荒木 浩





方丈記の草庵生活における美文の意義

——「心澄む」に関連して——

岡山 高博

宣長の歌学びの開眼

——『百人一首改観抄』の衝撃——

尾崎 知光

『永訣の朝』の位相

——宮沢賢治の挽歌をどう読むか——

吉良 幸生

村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』論

——〈ない〉から〈ある〉へ、〈世界のゆらめき〉をめぐる——

佐倉 明奈

名古屋大正期文芸雑誌考（四）

木下 信三

伊勢神宮参詣 松尾芭蕉と西行法師

恒松 侃

地歌『長等<sup>ナガラ</sup>の春』の歌詞から

——その古事来歴を尋ねて——

宮川 武治

俳句 薫風

湯本 明子

『文久写本狂言集』（愛知県立大学附属図書館蔵）翻刻 九

狂言研究会

表紙解説

熊澤 美弓

名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻（九）

浅井 圭子

江戸時代における「待った」・「待ったり」表現の史的考察

——成立時期、特徴、及び「待ったり」表現の成立過程について——

井上 徳子



『今昔物語集』における中流貴族の武勇譚 大川 のどか

『千載和歌集』の研究

——『久安百首』秋歌の検討から—— 速水 結美子

国木田独歩「牛肉と馬鈴薯」論

——〈復元〉と〈政治〉の諸相——

陰 能 成 央

新美南吉の青春と西洋音楽

——ベートーヴェン交響曲第六番《田園》聴取をめぐって——

加 藤 希 央

中島敦『和歌でない歌』<sup>うた</sup>

——『我』を廻る歌——

加 藤 彩

曾良随行日記から眺める松尾芭蕉おくのほそ道

恒 松 侃

子規「写生説」の不思議

——俳句を革新したのは写生論ではない——

吉 良 幸 生

戦う女たち

矢 野 貫 一

詩人 茨木のり子について

湯 本 明 子

名古屋大正期文芸雑誌考（五）

木 下 信 三

短歌 北京故宫石渠宝笈展

大 塚 孝 子

俳句 花吹雪

湯 本 明 子

『文久写本狂言集』（愛知県立大学附属図書館蔵）翻刻 十（終）

狂 言 研 究 会

名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻（十）

浅 井 圭 子

表紙・裏表紙解説

熊 澤 美 弓

購読ご希望の方は

杉浦邦子（TEL・FAX 052—901—2234）まで

お問い合わせください。

掲載作品については、愛知県立大学図書館にて、電子媒体による公開を予定しています。それについてご意見のある方は「あいち国文の会」までお申し出ください。